

Business File

遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会

遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会が主催する第9回「ふくろう公園インクルーシブDAY」が10月26日に開催された。「インクルーシブ」とは、年齢、性別、国籍、障がいの有・無などに関わらず、社会へ参加し、ともに生きる概念や環境づくりを示す。

活動の始まり

「遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会」は、障がいのある子どもたちがその特性に応じ、自らの力を生き生きと発揮し、安心して遊び育つことができる環境づくりを目的として、岩国総合支援学校のPTA役員や保護者を中心に、障がい者を支援するメンバーたち約20人で結成された。山口県岩国市に事務局を置き、山口県議会議員の橋本尚理氏が代表を務める。インクルーシブな公園の整備やイベント開催を通じて、障がいのあるすべての方とその家族が周りの目を気にせず、自由にのびのびと遊べる機会を提供している。

これまでの主な活動は、「ふくろう公園インクルーシブDAY」の開催・運営で、今回で9回目を迎えた。はじめは、障がいのある子とその家族だけに、ふくろう公園を開放するイベントであったが、回を重ねるごとに活動の輪が広がり続け、障がいのない健常者も参加している。

協力者が増え続ける

「遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会」が発足したのは、2021年8月。当会の事務局長で

ある益満えりかさんが、障がいのある我が子を公園で遊ばせたい一心で、山口県議会議員の橋本尚理さんへのプレゼンを決意したところから始まった。第1回目の開催は、同年10月17日に決まった。子供たちに人気がある山口県岩国市愛宕町の「愛宕山ふくろう公園」を貸し切り、岩国総合支援学や小中学校の特別支援学級に通う、児童生徒やその家族たち300人の参加を想定した計画だった。

当初、発足間もない当会の背景や目的、強い思いを伝えられるのは益満さん一人だけであったが、不安は杞憂に終わり、周囲の反応は考えている以上に大きく、当日の参加者は予想を上回る約400人にのぼった。

第2回（2022年5月）の参加者はさらに増え、障がいのある子ども155人と、その家族374名を含む529人が参加した。一人では遊べない子供も参加するため、さらに236人のボランティアがサポートした。また、岩国医療センター附属看護学校の生徒が授業の一環として参加し、障がい児とその家族を見守ったほか、岩国警察署、米海兵隊軍人や米軍岩国基地消防隊も協力し、地域全体でインクルーシブな社会の実現に向けた一歩を踏み出した。約400人でスタートした同イベントは、ボランティアを含めて総勢1300人が参加する大規模イベントに成長した。

障がいを隠さず、未来をあきらめない

事務局の益満さん自身、我が子が生後1ヵ月

で希少な染色体異常と診断され、それまで全く知らなかった障がいのある子供の育児という困難と向き合ってきた。身体の発達が遅く、首が座ったのは1歳で、初めて立ったのは4歳になってからだった。公園に行っても周りの目が気になり、障がいがあるとも言い出せず、孤立感を深めるなかで、「障がいのある子も、ない子も、誰もが一緒に遊べる場所を作りたい」という強い思いが芽生えたという。ただ、「遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会」の活動を精力的に行うなかで、子供が成長するにつれ、新たな現実にも直面した。

支援学校の高等部を卒業すると帰宅時間が早くなり、仕事も退職せざるを得ない保護者がいる。年齢が高くなればなるほど運動をする機会も限られ、公園で遊ばせにくくなり、高等部を卒業した子供たちの将来にワクワクできるような場所がない。

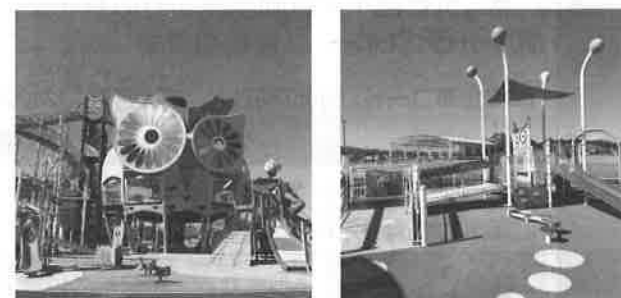
我が子が育つ過程で、周囲の支援・理解が重要であると現状に危機感を覚え、当会の事務局を続けながら、未来をあきらめないために、運動療育に特化した新しいデイサービスを提供する(株)エンジョイ（TDB 企業コード：022068219、広島県大竹市）を2024年11月に設立した。

障がいのある方でも楽しく運動できることをコンセプトに、その家族にも自由な時間を提供できればと願い、月～土曜日（祝日含む）の9時～16時まで利用可能としている。「自分が思っているよりも、実は世の中って温かいです」「障がいを個性や特性と捉え、子供の未来をあきらめない」「障がいがあることを隠さない」という益満さんの言葉が心に大きく響いた。

真のインクルーシブを目指して

今年3月31日に、これまで当会がイベントを行ってきた岩国市愛宕町の「愛宕山ふくろ

う公園」において、岩国市内の公園で初めて、障がいのある子どもも使いやすい「インクルーシブ遊具」の利用が始まった。障がいの有無にかかわらず、遊べる場を提供しようと、2023年度から岩国市が事業を始め、市内の子どもたちや保護者の声を丁寧に聞いて設計に反映させ、進めてきた。現在、年齢や障がいの有無にかかわらず、来園者たちの姿がインクルーシブ遊具の敷地内に広がり、多くの子どもたちが遊具を満喫している。事務局長の益満さんはこれまで、遊具の設計について市と協議を続け、当会が求め続けてきた姿へ一歩近づいた。「障がいのある子もない子も、いつ来ても楽しめる場所がついに完成した。一緒に遊ぶ光景が当たり前になっていくのがうれしい」と語る一方で、「地道な活動ですが、継続が重要と考えています。多くの課題を解決し、最終的にはこのイベントの開催を無くすことが究極の目標です」と話す笑顔が印象的であった。



左：「ふくろう」をモチーフとした大型複合遊具
右：今年3月末から供用開始したインクルーシブ遊具

【問い合わせ窓口】

遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会

2021年10月

山口県健康福祉局障害者支援課が推進する「あいサポート運動企業等」に認定

代表：橋本尚理氏（山口県議会議員）

連絡先：岩国市麻里布町1-4-3-205（事務局）
益満えりか氏

T E L: 0827-23-4001

F A X: 0827-23-0153

主な活動：「ふくろう公園インクルーシブDAY」
の開催・運営